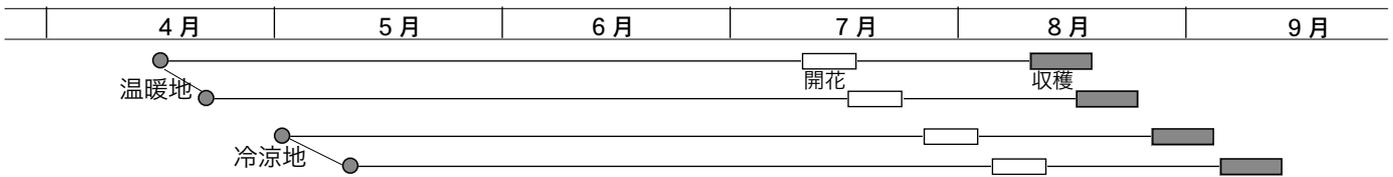


# 俵形小玉スイカ 夢枕

## 《その特性と栽培のポイント》

### 直播き栽培の栽培暦



### 【栽培のポイント】

夢枕は、少肥で栽培でき、大玉に近いシャリ感を備えた小玉スイカを目標に育成しました。育種圃場は準高冷地の火山灰土壌（黒ボク土）で、草生栽培を取り入れ、無マルチ・無整枝の栽培条件下で、旺盛に生育し坦果力のある系統を選抜しました。そのため火山灰土壌のような軽い土で土層が深く、排水良好な土壌で特性を発揮しますが、粘土質の重い土や排水不良な畑では、草勢が旺盛になりすぎてツルぼけになり、着果不良や肉のしまりすぎ、糖度不足を起こします。また低温期のハウス栽培も不適で、日照条件の良い露地栽培において、昼夜の温度格差のある地域で高品質の果実が収穫できます。栽培に当たってはこれらに留意し、排水を良好にし、元肥を抑え腐植を増やして、根群を発達させ充実した生育をさせて、無整枝で自然に着果させることが大事です。

#### 畑の準備

堆肥や緑肥などの有機物は、腐植化をすすめるためなるべく前年の秋に全面に鋤込む。春の鋤込みは完熟堆肥を用い、作付け1ヶ月前までに行う。未熟堆肥は鋤込まず表層に敷く。畦幅2.5～3mとり、畦肩の両側に風よけや害虫飛来防止に緑肥用エン麦・アークローバを播く。株間は60～80cm、播種する位置に直径4.5cm、深さ30cm位の穴を掘りEM生ゴミ土や混土堆肥などを入れて鞍つきをつくる。（鞍つきの作り方参照）鞍つきの盛土は地面より6～9cmにし、培養土があればこの上にさらに三握りくらい施して土と混ぜておく。

#### 播種

直播きは、梅雨の終わる頃に開花させ、盛夏に実を肥大させるのがつくりやすく、品質のよいものが収穫できる。過度の高温下では生育悪く品質も低下するので、温暖地では8月中旬頃までに収穫する。冷涼地は盛夏期が適温になるので、なるべく早めに播く。早播きする場合、遅霜のおそれがある地域では保温キャップやトンネルで被覆する。タネ播きは、鞍つきの盛土の頂上をわずかに東南に傾斜させて軽く叩いて平らにし、その中央及び小指を開いたくらいの範囲に適当な間隔をおいて3～5粒播きつける。種子を平に指頭で軽くおさえて種子がかくれる程度に薄く土を覆い、その上に清潔な川砂を直径45～50cm、厚さ1.5cmくらいに覆い、十分灌水して保温キャップで被覆し、保温につとめる。播種後の覆砂は土壌の乾燥を防ぎ、適湿を保ち、地温、気温を高めるので、発芽を良好にし、幼苗期の生育を促進するなどの効果がある。

#### 着果までの管理

スイカの根は子葉展開後に第二次根、本葉2枚展開後に第三次根が分岐して、根数の増加が早い。発芽後60日くらい（第1果着果前）には根の分岐、伸長が旺盛になり、90日くらいして着果最盛期で根群が完成し、収穫まで徐々に生長する。発芽から着果までは栄養生長が旺盛でツル伸びがよいが、肥大期から生育転換期となり生殖生長が盛んになって側枝が止まるので、着果後の負担に耐えるだけの根と茎葉を初期に発達させることが大切である。スイカの茎は子葉から4節までは、節間がつまって直立するが、本葉5枚目が出ると心が横を向き、地這い性になり、節間も長くなる。鞍つきは発芽からツルが伸び出す伸長期までの養分となり、根や茎葉を育て自立するための基礎体力づくりを支援する。生育初期はしおれないかぎり灌水は控え、根を深く張らせる。また株のまわりに敷き草（地温が上がりツルが50cm位伸びた頃）をして土壌水分を適湿に保ち、土つくりの協力者である土壌動物の生活の場をつくり、根が伸長しやすい環境をつくる。

#### 仕立て方

少肥栽培では根の生育が優先するため、地上部が過繁茂になることはないので整枝の必要はない。但し、ツルが重なって混み合わないよう親ヅル・子ヅルを同じ方向にツル間隔が20cmくらいに揃えて伸ばす。ツルが50～80cmくらいになった頃に、自由に各方向に向かっているツルを伸ばしたい方向に向け配置する。ツルが100～120cm位に伸び、着果させる雌花が心に見えてきた頃、草勢が強すぎるようならツルの引き戻しを行い、ツルの生育を一時おさえ、着果をよくする。肥沃な土では親ヅルを本葉6枚で摘心し、子ヅル4～5本を主枝として伸ばす。草勢が強い場合は、着果周辺の孫ヅルを早めに摘除する。着果後は放任にする。

#### 着果期

雌花の着生は、親ヅルの6～8節に第1雌花をつけ、以後7～8節ごとに着生する。生育のバランスがよいと15～20節に着果する。低節位の着果は品質を悪くするので摘果する。ツルの伸長が不均一になると早く肥大した果実が遅く着果した果実の肥大を抑えるので、ツルの生育を揃える事が大切である。放任仕立てで主枝3本に1～2果、主枝4本仕立てで3～4果を目標とする。

#### 雌花開花日のマーキング

収穫の目安は、開花後33日くらいになるので、着果後果実が鶏卵大（開花後5～6日目）頃に果実にラベルをするか、着果棒を立てておくと、これから26～28日後が収穫日となる。

## 収穫適期の判定

**果皮色の変化：**肥大するに従って果面に粉が付着し、果皮色がぼけてくるが、成熟してくると果粉が少なくなり、黄緑の果皮色とクリーム色の縦線が鮮明になる。

**接地部の色と手ざわり：**果実の地面についている部分の果皮色の黄色みが鮮明になり、手ざわりがザラつくようになる。

**果梗の色と毛茸：**果梗の付け根の毛茸が消えて、果梗の緑色が少し抜けて灰緑になる。

**着果節の巻きひげの枯れ具合：**着果節の巻きひげが三分の一くらい枯れてくる。

**果実の弾力：**花落ち部周辺を押して、弾力があり、メリメリといった果皮が裂ける音がする。

スイカの果実の外観による収穫適期を判定する方法は、草勢の強弱、日照条件などによって異なるので、熟練をようする。そこで、着果日が判るマークをつけておき、収穫期に開花日の異なる果実をいくつか試し切りし、収穫日を決めるのが確実である。

## 採種とタネ洗い・乾燥

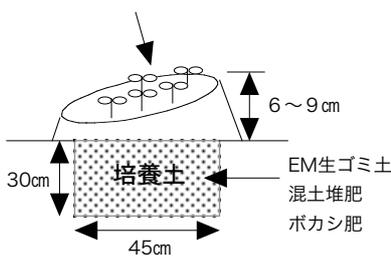
スイカは1果実から200粒程度の種子が得られるので、自家用なら交配果は1果あれば十分である。タネの取り出しは、普通に食べながら行い、取り出したタネはすぐに水洗いし、3日程度天日で干し、十分に乾燥させる。スイカは長寿種子で、温度変化のない条件で乾燥状態を維持すれば4～5年は保存できる。

## 選抜の仕方

小玉スイカ「夢枕」は、日本の交配種小玉スイカと台湾の小玉スイカの交雑から育成した固定種である。果皮色は黄緑の無地皮で揃ってるが、果形、果肉色、肉質は多少ばらつかせてある。その頻度は俵形が標準で60%程度、長形20%弱、丸形25%。また果肉色や肉質についても、濃赤色で硬くシャリ感の強いものが多いが、一定頻度で朱色や桃色のものや、果肉の軟らかいものも出現する。「夢枕」の採種は、周囲から別のスイカ花粉の舞い込まない隔離圃場で行われており、「夢枕」の品種特性や雑種的な強さは、上述の「丸形と長形」、「朱色と桃色」、「シャリ感と硬さ」などの要素が少しずつ異なる個体間で、自由交配が行われることによって発揮されていると考えられ、採種果の選抜によって一定の特徴（夢枕らしさ）を維持しているといえる。その特徴を維持するには、まず形の整った俵形を選んでもらうとよい。また食味には草勢や着果性とのバランス能力など品種の総合的な能力が反映されているものと考えられることから、必ず食べて美味しいものから選ぶようにする。果肉は極端な朱色や桃色のような偏った色でなく、濃赤色のもの、肉質も適度な硬さとシャリ感をあわせもつものを選んだ方がよい。果肉色のさえないものや、うるんだ肉質のものは、たとえ甘味が強くても選ばない方がよい。また1株だけでなく、数株の果実から美味しいものを選んだ方がよい。選抜の際、果形が丸形や長形であっても、肉質に優れ美味しい果実を選ぶことを続けていくと、夢枕を全く新しいオリジナルの品種へと変化させることも可能である。

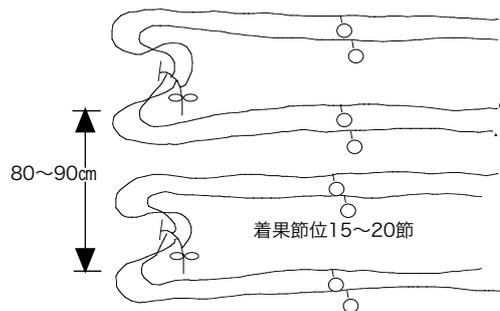
夢枕は単に栽培に供するタネとしてだけでなく、ユーザーによる選抜を加えることによって、自家採種による変化を楽しむことができる品種なので、是非ユーザーオリジナル品種育成のための元タネとしても活用していただきたい。

乾燥すれば下側の発芽やその後の発育がよく、湿りすぎれば上部のものの発芽、発育がよい。



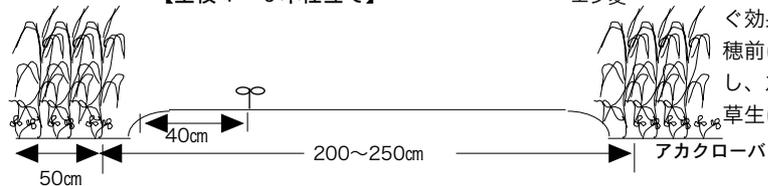
### 【直播き栽培の鞍つき】

盛土の頂上をわずかに南向きに傾斜させ軽く叩いて平らにしておく温度が上がりやすい。種子は平に指頭で軽く抑えて種子がかくれる程度に薄く覆い、その上に清潔な川砂を厚さ1.5cm位に覆い、十分灌水して保温キャップを被覆し、保温・保湿につとめる。

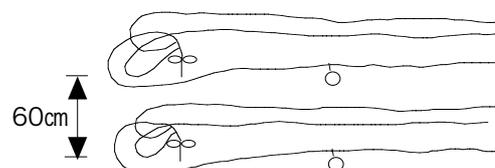


【主枝4～5本仕立て】

**主枝4～5本仕立て：**肥沃土壤に適した仕立て方で、親ヅルを本葉6枚で摘心し、子ヅル4～5本を主枝とする。孫ヅルは放任にするが、草勢が強い場合は着果周辺の節位の孫ヅルを早めに摘除する。1ヅルに1果を目標に、15～20節に着果させる。



**エン麦、アカクロバの間作：**作付け前に畝間に播くと、風よけや飛来害虫を防ぐ効果がある。エン麦は出穂前に青刈りして敷き草にし、刈り跡をアカクロバ草生にする。



【放任仕立て】

**放任仕立て：**痩せ地や少肥栽培に適した仕立て方で、発生したヅルはすべて伸ばす。親ヅル・子ヅル3～4本の主枝になり、1株1～2果を目標に15～20節に着果させる。